

JASCT

ニューズレター

第12巻第2号

平成5年(1993年)6月

発行人: 松本清一 印刷所: 絢文社

第13回 日本性科学学会

第13回日本性科学学会を下記のごとく開催しますので、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。一般の参加を歓迎します。

日 時 平成5年9月19日(日曜日) 9時~17時

会 場 神戸市医師会館ホール

プログラム

9:00~ 9:02	開会の辞	第13回日本性科学学会会長	山 崎 高 明
9:02~ 9:15	「世界性科学学会をめぐって」	JASCT会長	松 本 清 一
9:15~11:30	シンポジウム 「学校性教育」		
	1. 「小学校における性教育と心の発達」	神戸市立小部小学校教諭	山 口 隆 幸
	2. 「中学校の性教育の取り組みについて」	神戸市立広陵中学校教諭	坂 本 建 彦
	3. 「学校保健活動をととして思春期の“性”と“生”の支援」	神戸市立赤塚山高等学校教諭	内 藤 美朝子
	4. 「学校性教育に対する産婦人科医の関与」	福岡県 幾嶋医院院長	幾 嶋 栄三郎
		西宮市 山内産婦人科医院院長	山 内 敏 弘
	特別発言: 「学校教育における[性教育と性教育]の大切さ」	(財)生命科学総合研究所理事長 産業医科大学名誉教授	岡 村 靖
	追加発言: 「小学校における性教育の問題点と課題~養護教諭の立場から~」	大分市立三佐小学校教諭	河 野 真由美
		山崎産科婦人科医院理事長	山 崎 高 明
11:30~12:00	学会長講演 「当院における未完成婚」		
12:00~13:00	休憩・昼食	理事会	
13:00~13:05	兵庫県産科婦人科学会会長 挨拶		
13:05~14:35	一般講演 9題		
14:35~15:05	教育講演Ⅰ 「学校におけるエイズ教育の課題と教育技術」	千葉大学教育学部教授	武 田 敏
15:05~15:15	休 憩		
15:15~15:45	教育講演Ⅱ 「10代妊娠の問題点と対策」	大阪府立母子保健総合医療センター名誉顧問	竹 村 喬
		三聖病院院長	齊 藤 宗 吾
15:45~16:15	教育講演Ⅲ 「新婚インポテンス」		
16:15~16:55	特別講演 「女性の発毛形態と内分泌環境」	滋賀医科大学産科学婦人科学教室助教授	笠 井 寛 司
		第14回日本性科学学会会長 山形大学産婦人科学教室教授	広 井 正 彦
16:55~17:00	閉会の辞		

学会事務局: 〒658 神戸市東灘区住吉東町2-4-38 山崎産科婦人科医院 TEL 078(851)6490

Vol 12

No.
2

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

セ ッ ク ス レ ス

神 尾 記 念 病 院 堀 一 子
JASCT カウンセリング室

セックスについては、その原因や期間の定義はまだ一定していませんが、今回報告するのはセックスができないわけではないがあまりしたくないため、ほとんどセックスがないケースです。最近このようなカップルが増えてきているようですが、双方が同じ傾向なら問題になりません。治療に訪れるのは、一方だけにその傾向があるか、またはある時まで両方がその傾向で、ふとある日から一方がそのことに問題を感じ始めた人達です。何れの場合もセックスをしたがらない方は、その状態に何の苦悩も感じないわけですから、初診時、そのことを問題にしたパートナーに対する驚き、苛立ち、不安は隠しようありません。治療はそんな状況で始まります。

Eさん夫妻は結婚歴10年、子どもはいません。二人の性生活は新婚当初から3ヶ月に一度位でしたが、ここ数年は、年に1回あるかないかという状態でした。E氏はそういう生活になんら不満はなかったのですが、E子さんはずっと不自然に感じ寂しい思いをしてきました。しかし、E子さんも仕事が忙しいので、現状からつい目がそれるのです。

ただ、こういう生活をずっと続けていくのかと思うとなんだか薄ら寒い思いはしていました。せめて子供がほしいと思って、E氏に頼んで年一度位性行為をしてきましたが、「頼んで大儀そうにされてすることだろうか」と思うのです。

一方、E氏にとっては自分も彼女も仕事に充実し、全てうまくいっていると思っていたのに、彼女の方からの問題提起はまさに青天の霹靂でした。しかし、性生活のことはこれまでも時折指摘されていたので、内心「しまった」と思い、「これからきちんとやる」と言いましたが、E子さんにとってはもう回数の問題ではなく、自分達夫婦の在り方の問題になっていました。

E氏にとって不思議なのは、E子さんをととても愛しているのにそれが性に結びつかないということです。その一方、十分愛し合っているのだからセックスなんて無くてもいいじゃないかという思いもあります。

二人は学生時代に出会いました。子どもの頃から、学業、スポーツ全般に優れていたE子さんは勝ち気で、いつも全力疾走で生きている人でした。それだけに多感であり、生きることは自分が傷つくか、相手を傷つけるかになってしまおうと悩んでいた頃でした。E氏との性体験は「自分にも相手にもよいことがある」と思える初めての出来事でした。一方E氏の方は、20代前半の非常に性的な欲求が強かった当時、彼女との性生活に夢中になりました。しかし、そういう生活を1ヶ月ほど続けているうちに、こんなことをしては自分はバカになってしまうと思うようになりました。E氏から戸外でだけ会うことを提案された時、E子さんは二人の関係を否定されたような気がしてショックだったことを記憶しています。それでも大学を卒業して1年後、二人は結婚しました。

さて、今の学生時代のエピソードにも二人の性への考え方の違いが少し表れていましたが、治療が進むにつれ、それがはっきりしてきました。治療に通わなければならなくなったことへの怒りでしょうか、E氏は来る日も来る日もE子さんの悪口を言い続けるので、私がE子さんのどんなところが気に入って結婚したのか尋ねました。「そりゃ、もちろん彼女がきれいで頭がいいからです」「どんな女より輝いていました」「僕は気だてなんてどうでもいいんです」とおっしゃるのです。

出会った当時、E子さんは彼の知らない難しいことをいっぱい知っていました。ところが、その彼女への印象が「なんだ、男と一つふとんに寝るだけの普通の女じゃないか」というふうに変わっていきました。彼が恋する輝いている女性は、男と一つふとんに寝てはいけないようです。その辺の根拠が、だんだん明らかになってきました。E氏にとっての性行為の意義は、射精の瞬間のみです。マスターベーションに近いものです。彼は、何人かの女性と性関係を持っていますが恋愛感情がありません。

彼は「僕の場合、セックスと恋ははっきり分離している」とおっしゃいます。「自分の中で、精神と肉体が分離していることはずっと前から気付いてはいたけれど、それで何が悪い」「そのことを人が病気というなら病気で何が悪い」とまで思えてきます。

ここで問題なのは、E氏が精神と肉体が分離していると考えていることでしょう。

正しくは精神と肉体が分離しているのではなく、精神がその肉体を備えている年齢相応に発達していないということなのではないでしょうか。この場合の精神とは、生活の中で体験を通じて身につけてくる社会的・心理的な自己を指します。それが結婚する年齢相応に成長していれば、人を愛する行為に当然性行為は含まれます。

E氏は生活の中で成長させることができなかった部分を、知的な面でカバーしてきました。実際彼は社会的にも、いわゆるエリートといえる人です。しかし、自分の中に頼りとする芯のようなものがないことには薄々気付いていたようです。「彼女(E子さん)には、体の中に尺度がある」という言葉に、それはうかがえます。

「私が彼の優しさと思ってきたものは、彼が裸で人と向かい合う自信がないからとっていた行動だったのですね」とE子さんが思ったとき、彼女は1年近くのカウンセリングを終え、新しい人生の途につきました。

JASCT 会員の実態調査報告

ニューズレター12巻1号と共にお届けした、JASCT会員の实態調査には、95名という多数の回答がよせられた。ご協力に感謝し、今後の活動の参考にさせていただくとともに、調査結果の一部を報告する。今回は会員のなかで実際にどれくらいの方が、性に関わるどんな活動をしておられるのかを知り、会員間のネットワークをつくることを目的とした。

表1は職種別に、性に関わる仕事をしている人の数とその内容を示した。回答者中、医師は79名で、特に産婦人科は53

表1. 職種別 性に関する仕事

職 業	産 婦	医 師 泌尿器	精 神	内 科	他	臨 床 心 理	カウ ンセラー	助産婦	教 師	他	計
回 答 者 数	53	9	6	7	4	2	5	3	2	4	95
性に関する仕事をして いる人の数	44	9	3	5	1	2	4	3	2	4	77 (81%)
性に関する仕事 の内容	1 B (38)	B (9)	A (4)	B (3)	C (1)	A (2)	G (4)	F (3)	CD (2)	AB (1)	
	2 A (26)	A (7)	H (4)	C (3)	EGH (1)	H (2)	A (2)	G (3)		C (1)	
	3 H (24)	F (4)	B (3)	A (2)		G (1)	I (1)	H (2)			

数値は回答者数。仕事の内容は回答者の多い順に上から記号で示す。

A Bなどの表記は同順。同じ数値でも順を変えたものは仕事の頻度を考慮。

A ; 性治療・性カウンセリング B ; 日常診療で性に関する C ; 学校での性教育 D ; 学校での性の相談 E ; 地域での性教育・啓蒙 F ; 地域での性の相談 G ; 電話相談 H ; 講演・著述 I ; その他

名と多数を占めるが、そのうち44名が何らかの性に関わる活動をしている。内容は最も多数の人が“日常診療で性に関わる”で38名、次いで性治療・カウンセリングの26名、講演・著述の24名である。職種別では、泌尿器科医、臨床心理士、助産婦、教師、などの回答者は全員、性に関わる活動をしている。職種により活動内容が片寄ることや、医師が多いため、診療面が強力であることは当然であるが、全体としても、個人レベルでも幅広い活動をしていることが知られた。このような会員の豊富な経験や意見、また疑問や不安なことなど、ニューズレターなどに是非とも投稿していただきたい。

“JASCTから患者、クライアントを紹介してよろしいでしょうか”の質問に対しては、52名(55%)が“はい”、16名は“いいえ”、27名は無回答であった。多くの会員が患者、クライアントを積極的に受け入れる態勢にあることが分り、こうした情報は今後名簿の編集などにも取り入れて、会員相互の連携をはかっていきたい。

JASCTの活動内容についての意見は、表2に示した。研修会(現在年1回)、学会(年1回)、学会誌(年2号、

表2. JASCTについての意見

	現状で良い	もっと頻繁に	内容を充実	回答者数
研 修 会	48 (51)	19 (20)	17 (18)	84 / 95
学 会	52 (55)	10 (11)	19 (20)	81 / 95
学 会 誌	44 (46)	9 (9)	27 (27)	80 / 95
ニューズレター	41 (43)	18 (19)	19 (20)	78 / 95
国際学会参加	52 (55)	8 (8)	7 (7)	67 / 95

() 全回答者中の%

うち1号は学会特集号)、ニューズレター(年4号)の状況であるが、約半数の方が“現状で良い”ということである。しかし“もっと頻繁に”“内容を充実”という人も多く、特に学会誌については内容の充実を望む声が多かった。ちなみに研修会の抄録集は、比較的内容も充実していると思われるのに、参加者にのみ配布されてもったいない、という声があり、今年からは会員にはこの抄録集もお届けすることを、幹事会で決定した。

JASCT活動については、情報の提供; 62名、教材・機器の紹介、貸し出し; 41名、患者・クライアントの紹介; 17名、などの要望があった。このほかの活動の要望、提案や、資格認定制度についての意見など、数多くよせられたが、数値化できないものが多いので、まとめ方を考慮し、別の機会に報告したい。

JASCT 幹事 島村・金子・大川

(文責 大川)

調査研究協力者募集のお願い

(幹 事 会)

1983年に周生期研究会と日赤医療センター・カウンセリング・サービス主催で、妊娠中の性に関する調査研究を行いました。近年、性意識、性行動の変化の激しさはつとに言われていますが、10年たった現在、妊娠中の性行動がどう変化したか調査したいと思います。これにより、妊娠中の性行動の実態が明確になり、妊婦への指導の資料となると共に、混沌とした現代の性への理解の一助になることを期待しています。今回はJASCTと日赤医療センター・カウンセリング・サービスの主催で行いますので、妊婦さんへアンケート調査してくださる方を募集致します。どうぞご協力ください。

調査の概要

対 象：妊産婦

実 施：1993，9～12月

アンケート用紙：B5判 10頁

アンケートの方法：無記名 母親学級等で渡し、プライバシーが漏れない形で回収

詳細については、事務局へお問い合わせください。見本アンケート用紙をお送り致します。なお、募集期間は7月末までです。

JASCT理事の阿部輝夫先生が、リオデジャネイロで行なわれた第11回WAS（世界性科学会）でAdvisory committee の役員となりました。本会として今後益々、国際社会のsexology と密接な関係をもつようになりました。

新 入 会 員

お手数ですが、お手持の名簿にご加筆ください。